



川崎大師ロータリークラブ 週報

例会日:毎週水曜日 PM12:30~
 例会場:大本山川崎大師平間寺信徒会館
 事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F
 Tel.044-277-7569 Fax.044-288-8550
 URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail: daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp

会長 牛山 裕子
 副会長 須山 文夫
 幹事 水口 衛
 SAA 松本 和晃

第2119回（本年度 第20回）例会 平成28年11月30日 一晴一

- 司 会 松本 和晃 S A A
- 点 鐘 牛山 裕子会長
- 齊 唱 「我らの生業」
伊藤 佳子ソングリーダー



来訪ロータリアンのご紹介 牛山 裕子会長
 濱田賢治様（横浜RC）
 株式会社 ホテルニューグランド 代表取締役社長
 小川久光様
 東日本旅客鉄道 株式会社 川崎駅駅長

会長報告 牛山 裕子会長

1. 高良 明ガバナーよりガバナー公式訪問の御礼状が届いております。
2. 川崎等々力RC 20周年記念の例会に会長、幹事で伺いました。参加に対しての御礼状が届いております。
3. ゆずりは園からご寄付の御礼状が届いております。
4. 米山奨学のカウンセラーが代わりまして中村眞治パスト会長が快くお引き受けいただきました。委嘱状とハンドブックが届いております。

ゲスト紹介 牛山 裕子会長

かわさきルフロン献血ルーム所長 小室壽美



5. 米山功労者マルチプル 寺尾会員、長島会員、清水会員、白石会員。

6. 第1回米山功労者感謝状 竹内会員。



7. 地区大会に長寿会員を表彰いたしました。
野澤会員、寺尾会員、炭谷さんお渡しいたします。



8. 昨日第2回パスト会長会を開催致しました。
パスト会長が11名、直前会長が1名、会長エレクト、現在の三役では会長、幹事が出席、計15名でとてもにぎやかな侃々諤々とした、それぞれがご自分の意見をおっしゃるいいチャンスでした。

幹事報告

水口 衛幹事



・年忘れ家族会、移動例会のお知らせの案内があります。12月14日までにお返事をお願いします。

・新春4クラブ合同例会 1月10日（火）川崎日航ホテル 12時30分点鐘です。出欠をお願いします

・本日青少年リーダー研修 ライラの締切りです。

・メールボックスに川崎大師 節分会の案内をポスティングしておきます。

・メールボックスにロータリーの友入れておきます。

・京急川崎大師駅前前後ほど社会奉仕委員会から案内があると思いますが1月4日、献血御参加される方
午前と午後の2部に分れていきますので出欠回覧します。出席の方を宜しくをお願いします。

・他クラブの例会変更 回覧 メイクアップ等にご活用ください。

・12月14日 先日入会された4名の方の新会員歓迎会を行ないます。場所は鈴木町から徒歩1分のビーバーというお店です。
御返事いただいていない方は出欠をお願いします。

・みなとみらいチャリティーマラソンの申込書が届いています。出走、参加したい方後ろに申込用紙が何部ついていますので
直接事務局の方へ提出下さい。

・職業講話の出欠の案内 12月15日2時から川中島中学校で行ないますので出欠されていない方、宜しくお願いします。

出席報告

石渡 利治出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2119回	61	52	32	20	61.53%
2117回	58	58	58	0	100.00%
前々回の修正 メークアップ 名			修正出席率 100.00%		



スマイルレポート (ニコニコボックス)

水口 衛幹事

横浜RC 濱田賢治様

ホテルニューグランドの濱田です。本日は2月に卓話を予定している、JR東日本川崎駅長とまいりました。どうぞ宜しくお願いします。12月のクリスマス例会もお待ちしております。

宮山光男会員

昨日の歴代会長会、出席の皆様御苦労様でした。

中村眞治会員

星野さん入会オメデトウございます。

竹田正和会員

寒いね、秋を感じないまま冬になった感じがします。会員の皆様には体調に気をつけてお過ごし下さい。

松井昭三会員

ご無沙汰して居ります。
新入会員多数の参加を知りました。
矢野委員長 御苦労様でした。
私はPSAの数値は低めに推移して居ます。

八尋匡彦会員

新会員の八尋です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

森田尊久会員

新会員の森田です。
どうぞ宜しくお願い致します。

牛山裕子会長

・横浜RC会員 ホテルニューグランド社長 濱田賢治様、JR東日本川崎駅長 小川久光様
ようこそ川崎大師へお運び下さいました。
・小室様、卓話を宜しくお願い致します。

水口 衛会員

・昨日の指名委員会及びパスト会長会出席の皆様お疲れ様でした。
・小室様、本日の卓話宜しくお願い致します。

本日のニコニコのテーマ

「小室様、本日の卓話宜しくお願い致します。」

遠藤悦弘会員、黒澤 穰会員、永松慎太郎会員

竹内祥晴会員、伊藤佳子会員、内田省治会員
横山俊夫会員、石渡利治会員、矢野清久会員
鈴木昇二会員、大崎克之会員、岩井茂次会員
小林勇二会員、石渡勝朗会員、宮沢和徳会員
合計 45,000円

委員会報告

社会奉仕委員会 永松慎太郎委員長

来年1月4日 恒例の川崎大師駅前での献血活動が行なわれます。回覧もまわします。
ぜひふるって参加をお願いします。



国際奉仕委員会 猪狩佳亮委員長

台北西門RC創立40周年記念式典の御参加について回覧をまわさせていただきます。

来年3月10日金曜日 昼間：ゴルフ、夜：前夜祭

3月11日土曜日 記念式典 それぞれに参加されるかどうか？

飛行機、宿泊についてご自身で手配をされるかどうか？

まとめてこちらに発注をご依頼いただくかどうか？

の確認です



地区社会奉仕委員会 鈴木 昇二会員

みなとみらいチャリティーマラソンと地区社会奉仕委員会、広報委員会、実行委員会が立ち上がり催す催し物です。

2590地区実行委員会が立ち上がり、来年2月11日 会場は横浜市みなとみらいりんこうパークです。

個人1.25キロ、5キロ、10キロ、ハーフマラソンリレー、フルマラソンリレー4名～10名の構成です。

できれば川崎大師RCからチームで参加してもいいのかなと思います。

是非皆さん参加を宜しく申し上げます。



卓話者の紹介 横山俊夫社会奉仕委員長

毎年恒例になっている献血推進活動です。

慣れてくるとなぜ1月4日からこの寒い駅前で皆さんに声をかけなければいけないんだろうなと思ってはいないと思いますが今一度、この11月の最後にかわさきルフロン献血ルーム所長に来ていただいて、我々のやっている献血推進活動がいかに重要であるかということ改めて赤十字の立場からお話をさせていただき、1月4日に臨めたら一番良いのかなと思っています。

演題「献血の現状」～皆さんにできる事～

川崎ルフロン9F かわさきルフロン献血ルーム所長

小室 壽美さん

昭和56年 日本赤十字社に入職

これまで地元川崎区の赤十字の奉仕団（全部で9つあります）、そのうちの川崎区は地域の皆さんの奉仕活動の相談、バックアップ、応援をずっとご一緒にしてまいりました。

ご縁があり昨年ぐるっと回り献血ルームに来たということで色々お話をさせていただき、川崎ルフロンが実は献血の成績があまり良くないです

なぜかということ、行かれた方いるかと思いますが場所が非常にわかりづらいということで、そういうことも含めて先ほどチラシも配らせていただきました。

お話を聞いていただくとわかると思いますが、血液は人工的には作れないです。

皆さんの善意で成り立っている献血運動です。その辺をお話を聞いて改めて感じていただいて、献血するのもよし、お声かけするのもよしということでお話をしたいと思います。

卓話 小室 壽美様

みなさん、こんにちは。

川崎大師の献血運動ではいつもお世話になっております。ありがとうございます。

本日は、卓話にお招きいただきましてありがとうございます。また、毎年1月4日の川崎大師の献血では長きにわたってご協力いただいておりますことを深く感謝いたします。

1月に献血の呼びかけのボランティアをしていただくに当たって、献血の現状や血液の使われ方などをご説明してご理解いただきたいと思っています。

まず献血とは、病気やけがで輸血を必要とする患者さんの為に健康な人が自らの血液を提供するボランティアを言います。

日本では、私たち「日本赤十字社」が血液事業を行って

います。

赤十字社は世界の189の国と地域で活動を行う団体です。すべての赤十字社は「人道」をゴールデングルールとして、その国の中で様々な活動を行っています。

赤十字の言う「人道」とは、人間の苦痛を予防し軽減することと、人間の尊厳を守ることです。

日本赤十字社では、国内の災害救護活動や海外での救援・支援事業、赤十字病院による医療活動そして血液事業など9つの事業を行っています。各国の中で、血液事業に携わっているのは日本、ベトナム、タイ、オーストラリアなどの赤十字社です。

では、何故、日本赤十字社が血液事業を運営することになったのか？これについては、輸血と献血の歴史からお話したいと思います。

血液は生命の根源であるとされて、古代エジプトやローマの時代から、人や動物の血液が若返りや病気回復の妙薬として利用されてきました。

1667年にフランスのドニという人が、子羊の血液を貧血と高熱の患者に輸血したのですが、4人目の輸血患者が激的な副作用のために死亡して以降は輸血が禁止されたそうです。

1900年にヒトには少なくとも3つの血液型があることが発見され、その2年後には現在のAB型が、1940年にはRh式が発見されました。

日本赤十字社血液銀行東京業務所が港区広尾に看板を掲げて、血液事業をスタートさせたのは1952年（S27年）のことです。けれども昭和30年に民間商業血液銀行による買（売）血が盛んになって献血者は激減してしまいました。

売血常習者は赤血球成分が回復しないうちに血を売ってしまうために、この人たちの血液は赤血球成分が薄く「黄色い血」と呼ばれました。この血液は輸血効果がないばかりか、輸血後肝炎などの副作用を起こしがちで社会問題になっていました。

昭和39年、ライシャワー駐日米国大使が暴漢に襲われて手術を受けた際に、輸血の副作用で血清肝炎を発症するに至り、これが売血による血液であったことから大きな社会的反響を呼び起こすこととなりました。

政府は昭和39年、輸血用の血液は献血によって確保する体制を確立するよう閣議で決定しました。

昭和44年には、ついに民間商業血液銀行が買血による輸血用血液の供給を中止しました。民間の商業血液銀行が預血制度を廃止したことによって、昭和49年には献血100%の体制が確立されたのです。

日本赤十字社が行っている「血液事業」とは、一般に血液を提供して下さる方を募集し、人の血液を採取し、血液製剤（人の血液やこれから得られたものを有効成分とする医薬品）として、治療を必要とする患者さんのために病院に供給する一連の事業のことを言います。日本で「採血業」の許可を受けているのは日本赤十字社だけです。

各都道府県には、必ず赤十字の血液センターがあり、その県の医療機関で使用する血液を採血し、供給しています。神奈川県は、大学病院が多いことから血液の使用量も多く、全国で3番目に血液を使う県となっています。

現在、献血の種類は、全血献血と成分献血があります。全血献血とは、血液中のすべての成分を採血する方法です。

成分献血とは血小板や血漿だけをいただいて、体内で回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法です。成分献血は体への負担が軽く済むため、年間に多くの血小板や血漿を献血していただけるという特徴があります。成分献血は、移動採血車の中ではお願いできません。献血ルームにおいていただかなければご協力いただけないものです。

献血は、主に献血ルームと献血バスで受付けています。献血ルームは駅前や商店街など都市部を中心とした交通の便の良い場所に設置し、献血者がリラックスできるように快適な環境を整えています。神奈川県内には8カ所の献血ルームがあります。

「かわさきルフロ献血ルーム」は、川崎駅の東口ルフロ9階にあります。お隣の日航ホテルから移転して5年になります。敷地面積は800㎡で採血ベッド20台を有する県内最大級の献血ルームです。

しかし、規模に見合った献血者の受け入れはなかなかできておりません。

血液センターでは輸血を受ける患者さんの安全と、献血にご協力いただいた方の健康を守るために採血基準を設けています。

400mLの全血献血では男女とも体重が50kg以上なければご協力いただけません。体調がすぐれない方や以前に特定の疾患にかかった方なども献血をご遠慮いただく場合があります。献血にご協力いただける方のハードルはかなり高いのです。

さらに、神奈川県内の医療機関で使用される赤血球製剤の95%以上は400mL採血由来ですので、200mL献血は積極的に受け入れていないのが実情です。年齢が採血基準に達しない方や、初めて献血されるという方からの献血で必要量は確保できているからです。

よく、「なぜ200mL献血じゃダメなのか？」「ボランティアで来てやっているのに」というご意見をいただきますが、人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違っていています。このため、複数の献血者の血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、発熱や発疹などの深刻な副作用が発生する可能性が高くなります。

例えば800mLの輸血に必要な献血者の数は、200mL献血由来ですと4人必要ですが、400mL献血ですと2人で済みます。患者さんの副作用発生の可能性が低くなり、安全性も向上するため医療機関からの要請の殆どが400mL献血血液なのです。

献血という崇高なボランティアは、自己満足ではなくて、



●点 鐘 牛山 裕子会長

相手のニーズに合わせた支援をすることをご理解いただいています。

成分献血は、血漿や血小板という成分だけを頂いて、赤血球や白血球はお体のなかにお返しするものです。体重が50kgない方でも、ヘモグロビンの値が400mL献血基準より少なくてもご協力いただけます。

ただし、全血献血よりも時間がかかります。必要な成分を頂きながら、編血するために50～70分ほどのお時間を頂いています。

血液を輸血すると言うと、けがで大量出血している人を想像されるかもしれませんが。

しかし、今は交通事故で大けがをされている方よりも、悪性腫瘍（がん）や心臓疾患による手術、血液疾患といった患者さんが使うことの方が多いのです。

患者さんに輸血される血液製剤は人工的に作ることができず、さらに有効期限があります。がんや心臓病といった疾病から外傷による大量出血まで、一番多く使われる赤血球製剤は21日間、がんの患者さんや止血に使われる血小板製剤は採血後4日間しかもちません。長期間の保存ができないので、常に必要な血液を確保するために献血のお願いをしているのです。

血液センターでは、医療機関でのこれまでの血液製剤の使用状況の統計から、一年間、1か月、週、日、曜日別に献血血液の必要量を割り出しています。供給計画に沿って必要な量に見合った採血が確保できなければこのバランスが崩れてしまいます。

採血本数が計画に対して95%しか確保できないのに、医療機関に供給する血液が予測の105%になってしまったら忽ちのうちに在庫がなくなってしまいます。

血液センターの職員は常に、予定した採血数を100%確保しなければならないという責任を感じています。血液センターの職員からロータリークラブ様に「献血者様を当日は何名確保していただけますか？」という不躰とも思えるお願いをするのはそのためです。

献血と現状についてご理解頂き、今後とも献血運動の推進にご支援くださいますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

日時：平成28年12月14日(水)は
通常例会です。

卓話者：市川 康夫様

月間卓話「老人の認知症の予防と対応」

クラブ
委員会

小林 勇次／秦 琢二／沼田 直輝